

経営相談 Q & A

「2013年版 中小企業白書」のポイント②（新事業展開・事業承継）

Q

当社は機械関連の中小製造業です。今後の自社の経営方針や戦略を検討するにあたり、中小企業の動向や取り巻く状況、注目すべきトピック、政府の方針等を把握したいと考えています。参考資料として中小企業庁が毎年発表する「中小企業白書」が役立つと聞きましたが、今年度の白書のポイントについて教えてください。

A

【13年8月号「2013年版中小企業白書」のポイント①】の続き】

第2部 自己変革を遂げて躍動する中小企業・小規模事業者

2. 新事業展開

新事業展開は、中小企業にとっては資金・人材面等の問題もあるものの、取り組んだ企業の多くが今後の売上増を見込むなど、事業の再生や成長の観点からも重要な課題となっている。

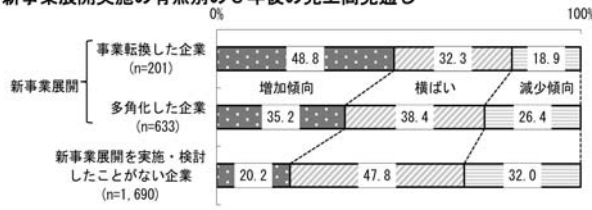
（1）新事業展開を実施した企業の特徴・新事業展開の効果

<ポイント>

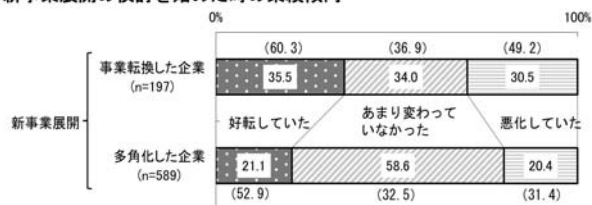
○新事業展開企業の多くでは今後の業績向上が見込まれ、特に事業転換を実現した企業の業績向上が著しい。

図表1

新事業展開実施の有無別の3年後の売上高見通し



新事業展開の検討を始めた時の業績傾向



(注) () 内は、3年後の売上高見通しが「増加傾向」と回答した企業の割合。また、本白書における定義・分類は次の通り。
 新事業展開…既存事業とは異なる事業分野・業種への進出を図ること。
 事業転換…過去10年の間に新事業展開を実施し、10年前と比較して主力事業が変わった場合。
 多角化…過去10年の間に新事業展開を実施した場合で、事業転換以外をいう。

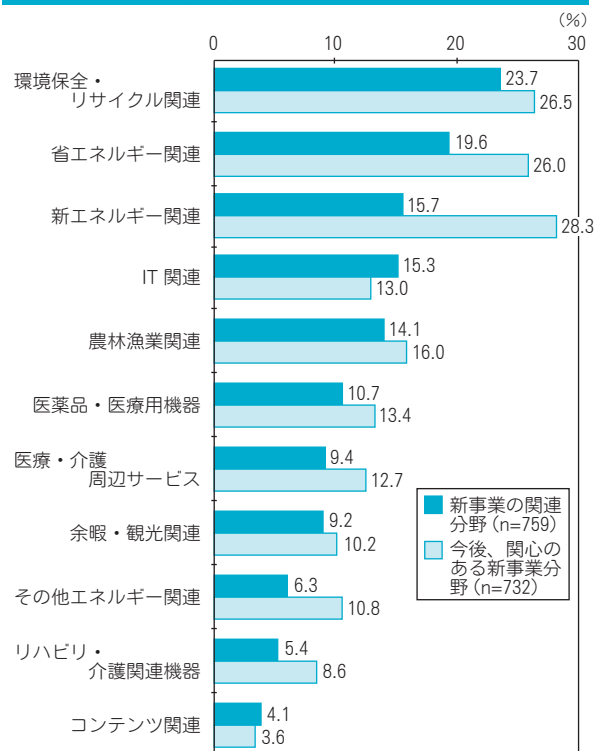
資料：中小企業庁「2013年版中小企業白書」（以下同じ）

○①業績が好転し余力がある間に新たな収益源を確保、②業績が悪化している中で現状打開のために新事業展開実施、の2タイプが存在（図表1）。

○新事業展開をしたことで、企業の知名度や信用力の向上、将来性・成長性に良い影響があったとする企業は6割以上。

○関心のある新事業分野として、新エネ・省エネ等エネルギー関連のほか、環境保全、農林漁業、医療用機器等が挙げられている（図表2）。

図表2 新事業の関連分野（複数回答）



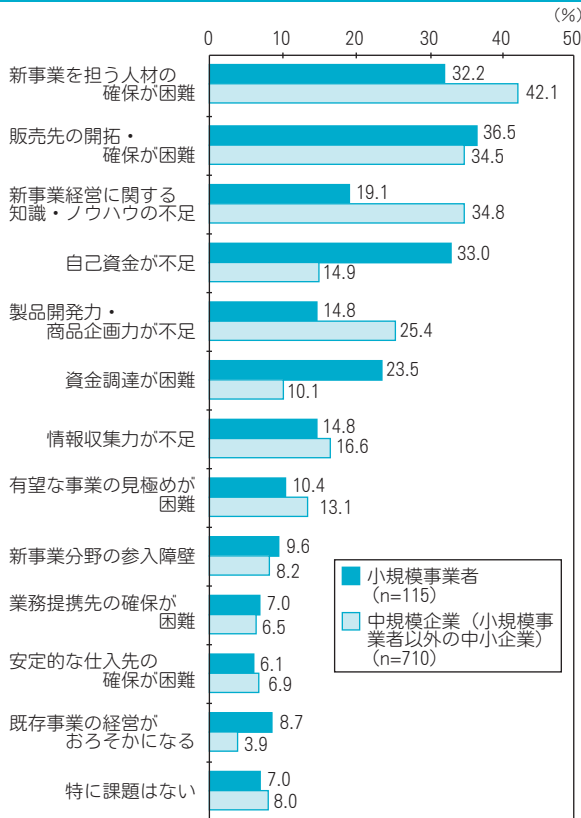
(注) 過去10年間及び今後、新事業展開を実施又は検討した・する企業を集計。

(2) 新事業展開の課題

<ポイント>

- 直面した課題としては人材確保、販路開拓が多いが、特に小規模事業者では、自己資金不足、資金調達も上位に挙げられている（図表3）。
- 新事業展開で成果を上げた企業は、自社の強みの分析・他社研究を着実に実施している。

図表3 規模別の新事業展開に際して直面した課題（複数回答）



(注) 過去10年の間に新事業展開を実施した企業を集計。

3. 次世代への引継ぎ（事業承継）

経営者の高齢化と後継者難は廃業に直結する問題であり、事業承継による経営者の世代交代が必要。また、世代交代が、経営革新や経営環境変化への適応を可能とし、企業を発展させる例もある。

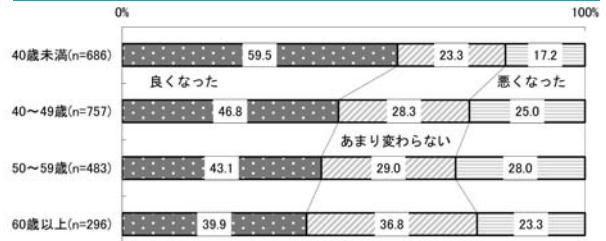
(1) 事業承継を取り巻く状況

<ポイント>

- 中小企業経営者の平均引退年齢は上昇傾向。
- 小規模事業者では、70歳以上の事業者の約7割が収益悪化に直面。

○事業承継時の現経営者が若いほど、業績好転の割合が高い（図表4）。

図表4 事業承継時の現経営者年齢別の事業承継後の業績推移



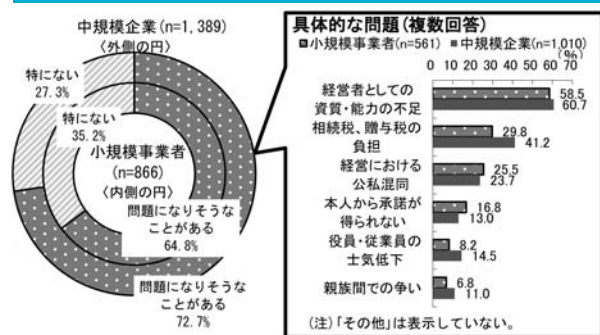
(注) 承継後5年間程度（承継後5年未満の企業は回答時点まで）の実績による回答。

(2) 事業承継を巡る課題

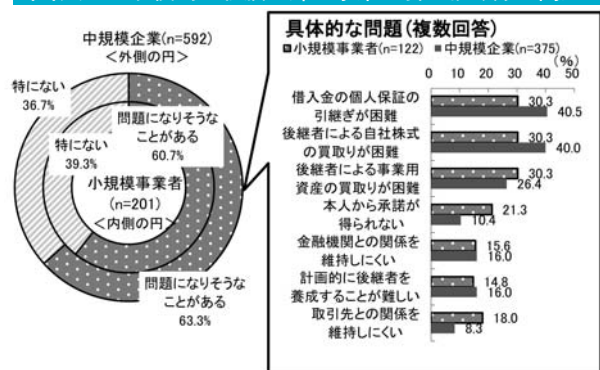
<ポイント>

- 小規模事業者の廃業理由として、後継者難が大きな割合を占める。
- 親族承継では、特に中規模企業で、後継者養成、相続税等の負担が課題（図表5）。
- 親族以外の承継では、個人保証の引継ぎや自社株式の買取り等が課題（図表6）。

図表5 規模別の親族に事業を引き継ぐ際の問題



図表6 規模別の親族以外に事業を引き継ぐ際の問題



※続きは来月号に掲載。

(吉村謙一)